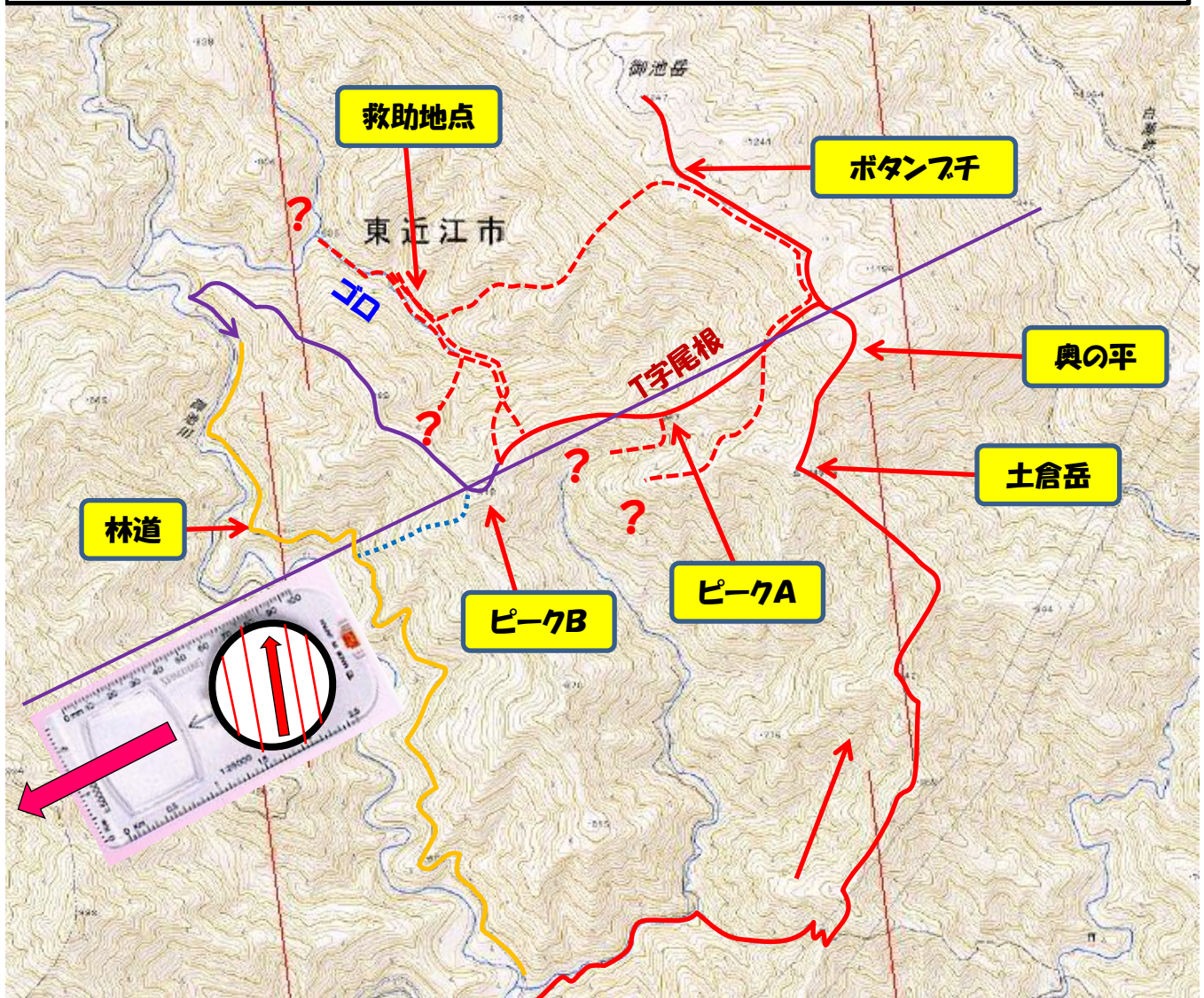


御池岳(2012年7月)

単独で行動していたが、道に迷っている人に出会う。二人になった所でホツし、相手の行動に合わせてしまい、自分では、テープ等の目印を確認しなくなった。完全に道に迷ったため稜線まで登り返し、ボタンブチで1泊。下山道は登ってきた道ではなく、なぜか、迷ったT字尾根を下山。相手は、自分と体力が違うため再び単独行となる。脱水症状で正常な思考ができず、山中を6日間迷った。幻覚もあらわれたが九死に一生を得て救助された。



解説

まずは、よかった。どんな形でも生きて帰れたことが、なによりです。1度は道に迷い、予定通りには下山できなかったものの、翌日の朝には、現在位置確認ができる「ボタンブチ」まで戻った。ここから、再度、T字尾根に向かったのだが、ここでの今後の行動を予測しよう。(来た道に戻るのが原則だが、T字尾根への下りについて予測する。)

①T字尾根への分岐を下り、ピークA、ピークBが現われる。②ピークBで北西に曲がり、尾根上を進むがその尾根は下りではなくしばらく平らが続く。③ピークBから北西に曲がり、尾根が急に下った場合は、ゴロ谷に下っている。④最悪、ピークBが分からなくてもT字尾根を真っ直ぐ進んだ場合、林道があるので脱出できる。

というように予測する。もし、迷ってもコンパス技術があれば、脱出は可能になる。今回は、①道迷いは、何度行ったり来たりを繰り返してしまう。②体力の低下とともに思考回路も低下する。という事例となった。「落ち着いて、落ち着いて。」「冷静に、冷静に。」私も今までに何度も繰り返してきた言葉であるが、もっとも大切だと思う。